

氏名 高 尾 正 彦

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 1037 号

学位授与の日付 昭和54年 6 月30日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)学位論文題目 血管鑄型法による正常および胃潰瘍の血管構築の走査電子顕微鏡
的研究

論文審査委員 教授 寺本 滋 教授 大塚 長康 教授 大内 弘

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃の微細血管に樹脂を注入，血管鑄型を作製し走査電顕で立体的に観察する方法により，正常胃の微細血管構築の詳細な解明と，潰瘍の慢性化，難治性の要因と血管系の関連を明確にする目的で，1) ラットおよびヒトの正常胃，2) 実験的慢性潰瘍，3) ヒトの胃潰瘍の微細血管構築を検索した。

正常胃では太い動脈より枝分れした小動脈が粘膜下層で網状構造をとり，この粘膜下層血管網より枝分れした細動脈は直線的に相互に分枝を出しながら粘膜組織中を走行，粘膜表層で類円型の網目状血管網を形成し，各所に見られる集合細静脈に流入する。

慢性潰瘍では正常胃にみられた血管網は失われ，血行上の弱点部，すなわち，a) 太く短い，横の連絡の乏しい肉芽層血管，b) 細く直線化した血管相互の分枝を有さない棚状の癒痕層血管，c) 粘膜下層における横の血行の途絶が観察される。そしてこの血行上の弱点こそ潰瘍の難治性，再発の要因と考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はヒトおよびラットの正常および潰瘍胃の微細血管構築を血管鑄型法により走査電子顕微鏡を用いて研究したものであるが，従来十分に確立していなかった潰瘍の難治性，再発の要因と微細血管変化の関連について重要な知見を得たもので価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。